



## 和太鼓は自分の生きがい

青山 正幸さんに聞く

「群馬県学校職員和太鼓同好会」の中に、一人異色の若者がいます。学校職員の年配者（失礼！）集団の演奏の中で、ひときわ目立って「かっこいい」スター。「彼が加わると音が違う、華やかさがある貴重な存在」（メンバーの評）です。

彼は、どうしてこのサークルに加わり、なぜ和太鼓を続けているのでしょうか。彼の思いを聞きたくて、9月のある練習日にインタビューさせてもらいました。



### 和太鼓との出会い

きっかけは、今から11年ぐらい前ですね。高校2年生の時、生徒会役員してまして、「3年生を送る会」の出し物で和太鼓やらないかと、船橋（聖一）先生が言ってきたんですよ。船橋さんは、当時先駆けでやる気満々だったんですね。

始めは興味半分でしたね。でも練習を重ねてやっているうちに、面白くなってきて…。たたき終わった後の達成感が、何とも言えない。こんな経験は初めてでしたね。

その時の曲目は、「ふれ太鼓」と「上州」でした。

### 和太鼓部をつくる

高校3年生になって、部活をつくろうと呼びかけたら、10人くらい集まりました。新田暁高校には、和太鼓の道具が揃っていたんですよ。大太鼓、締め太鼓はもちろん、桶胴とか、鼓など全て一式。だから、やる気があればすぐ取り組めたんですね。

でも、自分以外誰もたたいたことがない

初心者でした。船橋先生に、「おまえがやれば大丈夫だ」と言われて活動を始めました。

今度は自分が教える立場になって、教えながらやりました。顧問の先生も素人でしたが、音楽の先生ですからリズム感も良く、熱心に協力してくれました。

この年は文化祭に出演し、「秩父屋台囃子（やたいばやし）」をやりました！

その後、教える人もいなくなったので、廃部になったと聞きましたが。

私は、船橋先生のグループと一緒に、たたき続けました。今は、「学鼓」（群馬県学校職員和太鼓同好会）に所属して活動しています。

### ハードな練習、奥が深い和太鼓

最初の頃、荒馬座の講座に参加したのですが、二日間でしたが、ハードでしたね。

とにかく「力いっぱいたたけ」と言われてたたき続ける。もうへとへとで、手は豆だらけ、皮が剥けて血だらけ、満身創痕でしたね。お尻も血だらけで、その夜お風呂でも浴槽につかれなかったですね。

でも、他の運動と違って、疲れ方が違う。気持ちいい疲れですよ。

太鼓は他の音楽と比べて単純ですが、奥が深いです。

## 自分にとっての和太鼓とは

まあ、いちがいに言えば「生きがい」ですよ。もう11年くらいになりますから、こうも長く続くとはい。その魅力は何といってもやってて楽しいからですよ。

他の人を見るのも楽しい。初めの頃、秩父夜祭にバスツアーで行った時は、「やっぱり違う！」と燃えてきましたよ。ちよくちよく演奏会に行ったり、動画を見たりします。

なんで楽しいかと言うと、一番は、ストレス発散ですよ。

ただ、興味本位でたたいてストレス発散じゃなくて、ひとつの完全な演奏として自分の中ではやっているの、満足いくというか、聴いている人にもいい感じだなという思いを伝えられればいいかなと思っています。やっぱり一人でやっているわけではないので、みんなで楽しくやってるんだなという思いを伝えたいんですよ。

## 高校生に教えるのは面白い

坂田先生と一緒に玉村高校の音楽の授業で教えた時は、面白かったですねえ。



最初、手つけられない子たちだからね、ちょっと苦労するかもしれませんがと言わ

れてたんですが、いざたたいてみたら、みんな聴き入っちゃって。これはまた、別の世界を見せられたなと思います。

和太鼓は音楽の教科書にもものってるということを知っていましたが、やっぱり教科書で見るだけじゃなくて、実際に見るとやっぱり違うなと思います。生徒も、まさか自分たちもたたかせてもらえるなんて思ってなかったでしょうからね。たたいているうちにのってききましたから、良かったです。

## 仕事のこと…悩み

仕事は、高校を卒業してすぐ勤めたのが、ココイチ(COCO 壺番屋)のカレー屋。それから、トラックのドライバーを3年やって、今は代行の運転手を6年ぐらいやっています。

代行の仕事は夜7時から翌朝5時までです。昼間は、夜に備えて寝ています。

苦労することも色々ありますし、いやなお客もいますが、「みんな酔ってるんだから、どうせ次ぐ日は忘れるんだから」と気にしないようにしています。

一番の悩みは、休みが取れないことです。週1日休みということになっているんだけど、このところ休みはないですね。人手不足なんですよ。歩合給なんですけど、代行業界の基準より、自分とこは低いんです。

公安委員会の認可を受けた会社で、一応正社員なんですけど、社会保険とかはなく、自分は国保と国民年金です。事故や交通傷害に対しては代行保険という共済はありますが。

これから先ずっと続けようとは思っていないんですが、立場も上になったので立場上、抜けるに抜けられない。葛藤している部分ではありますねえ。

先々の夢と言っても、自分で何かをやってみたいとは思っていますが、まだ考えつかないですねえ。

インタビュー（坂田尚之、瀧口典子）